

大工・工務店

地産地消の家づくり
に取り組む

イシドヤホーム株式会社
有限会社岩木建設
梅田建設
株式会社大山建工
有限会社岡田工務店
有限会社キーポイントホーム
健康住宅工房ライフ
建築組パックス有限会社
企業組合県木住
有限会社桜庭工務店
せんだい建設
玉田工務所
三浦住研

イシドヤホーム 株式会社

前田 智之 様邸

ユーザー訪問

DATA

弘前市富栄

2013年7月竣工

■延べ床面積/51.24坪(169.75㎡)

■使用青森県産材/ヒバ(土台)、青森スギ無節
羽目板(内装材)、スギ集成材(柱)、カラマツ
(梁)など。



岩木山を間近に望む弘前市富栄地区で、4ヘクタール(約1万2000坪)の広大なリング園を営む前田智之様。実すぐりの作業が一段落した7月末(2013年)、自宅が完成した。ご両親と同居する二世帯家族の団欒の場は、合わせて21帖あるワンフロアの開放的なLDK。そのリビングのコーナーに設置された薪ストーブを指さして、「リングの木が薪なんです」と前田様。春先の剪定枝に加え、雪で折れたり、古くなって伐り倒したリングの木を集めると一冬に燃やし切れないほどの量になるのだとか。老いた木を伐倒したら、新しい苗木を植える——。この「伐っては植える」の作業は、山の林業にも通じる。前田様が、イシドヤホーム(株)の提案する、県産材を使った地産地消の家づくりを進んで受け入れたのは、木もリングも人も、地域と関わり合いながら生きている——という、認



リングの木を薪として使用しているというリビングのストーブ

県産材と長期優良住宅 家族が引き継いで住む

識の深さであった。(国土交通省の「地域型住宅ブランド化事業」を活用した青森県産材使用の長期優良住宅)

——施主と、工務店の担当者がご兄弟、というのはどんな感じでしたか。

前田様(施主)の話 いや、特に意識はしませんでしたよ。兄が畑を手伝いに来てくれれば、そ

のあとで焼き肉をしながら、家のことについて、あそこをああしたいとかこうしたいとか口頭で伝えるわけですよ。すると、1週間後くらいには兄がその要望を図面に書き込んで持ってきてくれるんです。その図面を見て、またああしたいとかこうしたいとか。畑を手伝ってくれるのと同時に家の打ち合わせもできたのですから、得でしたね。

前田孝之営業技術課長(施主の兄)の話 住宅の性能につい



台所と合わせて21帖あるワンフロアの広々としたLDK



ご両親も満足のスギ羽目板を天井に張った寝室

て（弟の智之様は）関心が高
 かったです。断熱性とか耐久性
 とかですね。それで、ちょうど
 イミングよく国が実施してい
 た『地域型住宅ブランド化事
 業』の活用を勧めたんです。こ
 れは国土交通省の補助事業で、

県産材を使った地域の気候・風
 土に合う長期優良住宅の建設
 を支援し、地域経済の活性化と
 ともに、近くの山の森林整備の
 促進を図る―ことが目的なん
 です。

前田様の話 地域経済の活性

化に、地産地消は欠かせないと
思うんです。地域にお金が落ち
るわけですから。青森の山で産
出される木材は、青森の資源な
のだから、青森での家づくりは
積極的に使つて消費すべきだと
思いますね。それと、家つて、長
く快適に家族が引き継いで暮
らしてこそ本来の家だと思っ
たんです。長持ちさせるために求
められるのが、高い住宅性能で
すね。(〇兄が勧めてくれた)〇地
域型住宅〇は、県産材と長期優
良住宅がセットになっていまし
たから、私の要望にぴつたり
だったんです。

——地域型の家づくりに賛同
したイシドヤホームの企業姿
勢と、それを受け入れた前田
様の理解があつて、この補助事
業が生かされたわけですね。

前田営業技術課長の話 そう
ですね。長期優良住宅の仕様で
建てれば、建築コストは高くな
りますが、「いいものをつくつ
て、きちんと手入れして、長く
大切に使う」という、国の施策

である住宅のストック型社会を
実現させるために、高くつく分
の一部を補助するのです。

壁、天井にスギ羽目板 現代和風の造りに満足

前田様の話 一昨年、こんなこ
とがありました。平川市内を車
で走っていたときに、建築中の
家の前を通りかかったんです
が、一瞥して、いい家だな、つて
思いました。助手席の妻も同じ
意見でした。その家だけが、浮
き立つみたいに、見えたんです
よ。外観が垢抜けていました
ね。その後も何回かその家の前
を通りましたが、見るたびに、
二人して、いいなあつて。その家
を建てたのが、イシドヤホーム
だとはあとになってから知った
ことです。社員の奥様の実家な
んだそうです。これには何だか
不思議な縁を感じましたね。

——昨年、この近くにもイシド
ヤホームの現場があつたそう
ですが。
前田様の話 ここから車で5



和と洋が融合したモダンなたたずまいのホール



天井と腰壁にスギの羽目板を使用した現代和風の和室

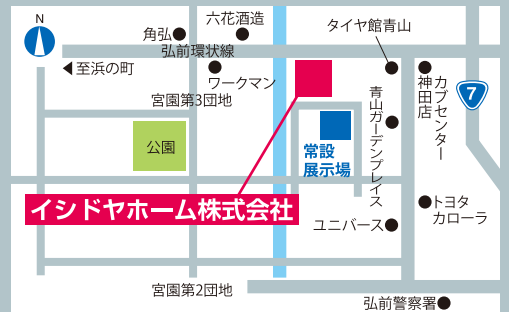
分くらいのところですよ。仕事の合間によく見に行きました。内装に木を使った造りが気に入りましたね。木つて、見た目に柔らかいじゃないですか。休まるんですよ。木の家つていうと、昔の木造校舎みたいに外壁も板、廊下も壁も天井も板を張った古い家のイメージがあったんですが、全然違ってましたね。わが家の和室の腰壁にも、両親の部屋の天井にもスギの羽目板を張ってもらいました。垢抜けた、現代和風の造りに両親も満足していますよ。

— 北の住まい —



イシドヤホーム 株式会社

弘前市青山 4丁目21-2
 TEL.0172-37-2424 FAX.0172-37-2425
<http://ishidoyahome.com>
 E-mail: ishidoya@jomon.ne.jp



有限会社 岩木建設

第6回あおり産木造住宅コンテスト優秀賞受賞

T 様邸

ユーザー訪問

DATA

八戸市

2013年6月竣工

■延べ床面積/53.5坪(177.21㎡)

■使用青森県産材/ヒバ(土台)、スギ(柱、床、羽目板、階段親柱、建具、下屋)、ケヤキ(柱、梁)、クリ(柱)、クルミ(パソコンカウンター)など。



真っ先に「木」の文字が目に入り飛び込んできた。次に、道路脇に立つ看板が見えた。長期優良住宅「いわ木の家」。それで住宅展示場の看板なのだと気が付いた——T様はそう振り返る。T様ご夫婦はそのとき十和田市内の国道4号を通行中であった。そこを通るのは初めてのことではなかったが、看板に気が付いたのは初めてだった。家を建て替える計画がいよいよ具体的になってきたT様の目に、今までは素通りしていた看板の方から飛び込んできたのだ。路地の奥に見えている大きな切妻屋根の家が展示場ようだ。T様は、ハンドルを切った。

**思わず吸い込む木の香り
保温性も高い無垢の恵み**

ご主人の話 看板の『いわ木の家』の「木」の文字が先に見えたんですよ。木の家をほしいと思っていたからでしょう。あの

看板が岩木建設に導いてくれたのです。真冬の2月で、展示場の玄関前に、雪をのせた屋根(下屋)が張り出していました。その様子がいかにも日本家屋といった雰囲気でしたね。屋根の下には分厚い板のウッドデッキがあって、新しい中にも昔の縁側のような懐かしさを感じられました。ひと目で気に入りました。

奥様の話 ドアを開けようとしたら、鍵がかかっていたんです。

す。でも、なんとしても中を見たいと、主人が展示場のすぐ脇の看板に書かれてある連絡先に電話をかけました。車で駆け付けてくださった方が、岩木(勝志)社長でした。

ご主人の話 玄関に入って真っ先に感じたのは、木の匂いです。そうそう、これこれ、って思いましたね。木の香りがする家を建てたかったです。リビングに入ると、床も天井も木でした。床板はカラマツで、独立して



雨や雪をしのげる軒先に張り出した大きな下屋



風合い豊かな木に囲まれたダイニングスペース



クルミの木を使用したパソコンカウンター

立っている木はクリ、8寸(約24センチ)角の通し柱はスギーと岩木社長が説明してくれました。そのほかにヒバやカバザ

クラなど展示場には12種類の木材を使用しているのだそうです。それらの木々の匂いが玄関に漂ってくるのですね。

奥様の話 拝見しているうちに、あれ、と気が付いたのは、室内の暖かさでした。鍵がかかっていたのですから、暖房は入っていないかと思ったら、あつたかいんですよ。パネルヒーターでもゆるく付けているみたい。岩木社長によると、無垢の木の保温効果なんだそうです。真冬の厳寒期に暖房なしでも底冷えがしないのは「木の恵み」ですね。

ご主人の話 後日、岩木建設で建てたユーザーのお宅も拝見させていただきました。玄関に立つと木の匂いがして、リビングには薪ストーブ、外には下屋があります。皆さん、展示場にひと目惚れして建てられたのですね。満足気な笑顔に接して、木には人の気持ちも温かくする恵みがあるのだな、と感じ入りましたね。

奥様の話 わが家で、気に入っているのは、リビングの入り口の「木の戸」です。木を1枚1枚、市松模様には張り付けた戸

で、ケヤキやエンジュなど粋のスギを含めて19種類もの木を使っているのだとか。「いわ木の戸」にぴったりの「いわ木の戸」

ですよ。毎日見ても飽きません。今年6月にここで開かれた見学会（『T様邸完成見学会』）のときに、来られたお客様



18種類もの木を市松模様には張り合わせた奥様お気に入りの「木の戸」

に分かるようにと樹種を書いた紙が貼られてあったのを、今でもそのままにしてあるんです。覚えきれませんがね。

壁、天井にスギ羽目板 現代和風の造りに満足

——吹き抜けの太い梁は何の木ですか？

岩木社長の話 ケヤキです。作業場の外に積んで乾燥させておいたものです。3本のうち、



吹き抜け部分を囲んでいる3本の太いケヤキの梁



大工の高度な技術が光る日本古来の工法で組まれた梁

(神社の鳥居を想わせる)曲がりの梁をリビングと和室の境に架け、その両端に、直角にもう2本の梁を架けています。長物のケヤキ3本をそれぞれ加工して使いました。梁を受ける2本の柱もケヤキで、どちらも8寸(約24センチ)角です。リビングには8寸角のケヤキの柱を全部で5本立てています。ちよ

とやさつとじゃびくともしませんと。
 — 玄関の天井近くに、梁の上に梁を載せた部分があります。が、あれは何でしょう？
岩木社長の話 渡り顎(わたあご)材を直角に交差させる日本古来の渡り顎工法と呼ばれるもので、木どうしに溝を作つて、互いにはめ込む仕口(継手)の二つ



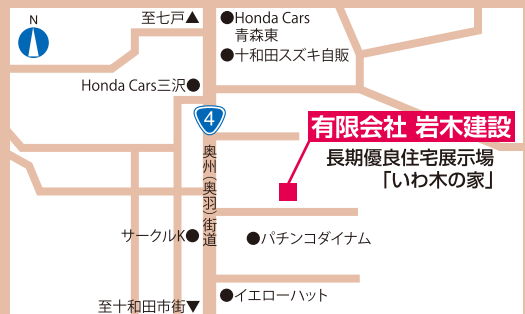
和室の二間続き。木は畳の間とも相性が良い

です。昔ながらの大工の技ですよ。
奥様の話 ふだん特に意識して見ているわけじゃないんですけど、ケヤキの柱とか梁とかがいつも視界に入っていると、知らず知らず太い木に守られているような気がしてきますね。安心感があるから落ち着くんではない。近所の人たちも、大きな地震のときはここに避難させてもらおう、って本気半分で話していますよ。

いわ木の家

有限会社 岩木建設

十和田市大字洞内字井戸頭175-1
 TEL.0176-27-2906 FAX.0176-27-3259
 E-mail:iwaki@sea.plala.or.jp



有限会社 岩木建設

中村 様邸

ユーザー訪問

DATA

十和田市奥瀬
2013年4月竣工

- 延べ床面積 / 55.23坪 (182.94㎡)
- 使用青森県産材 / ヒバ(土台、トイレ内壁)、スギ(柱、床、天井、内壁、下屋の桁)、ヒノキ(柱、床柱、下屋の独立柱)、サクラ(床柱)、ケヤキ(上り框)など。



玄関に入ると、正面の廊下に建っている、大きな市松模様のカラフルな引き戸が目が惹かれた。1枚1枚、樹種の違う四角な板をはめ込んで製作したものだ、近づいて見て分かった。青森ヒバやケヤキや、エンジュ、タモなど18種類、枠のスギを含めると全部で19種類もの国産材を使った贅沢な手作りの建具である。(南)岩木建設の岩木勝志社長が、東京の建材展で目にした小引き出しをヒントに、自社が建てる木の家にふさわしい「木の戸」として最初に採用した、中村様邸をご紹介します。

暑さ、雨、雪から家守る 軒の深さが1間の下屋

ご主人の話 近くの工務店に頼むのが一番だと、もともとと考えていました。十和田市に住んでいるから、十和田市の工務店ですね。何があっても、近くの工務店だと対応が早いですから。



ケヤキやエンジュ、スギなど19種類もの木材を使用した「木の戸」

奥様の話 うちの二人の子供たちと、岩木さんのお子さんとちが小学校、中学校と一緒にだつたんです。それで、PTAではしょっちゅう岩木専務(岩木社長の奥様)と顔を合わせていましたし、それからうちの主人と岩木社長も小・中が一緒でしたから、岩木さんは工務店としてというより、昔からの知り合いといったイメージが強いですね。

ご主人の話 いよいよ建て替えることになって、家内と岩木建設の展示場を見学に行つてみました。目にとまったのが、玄関前に張り出している、軒の深い屋根でした。「下屋」と言うのですね。夏には直射日光を遮ってくれるから室内が涼しく、雨が直接外壁に当たらないので傷みが少ない、と岩木社長が利点を説明してくれました。冬は屋根が出ているから落雪で窓が埋もれませんが、下屋があるだけで寒さも和らぎます。考えてみれば、昔の建物がみんな軒を深くしてあったのはちゃんと理由があったんですね。今年(2013年)春に完成したわ



軒の深さが1.8mもある下屋は直射日光や寒さを軽減してくれる

が家の「下屋」は、軒の深さが1間(約1・8メートル)もあります。角の母親の部屋から、真ん中のリビング、その隣の和室へと連なっている様は、黒石の「コミセ」に似ていますよ。岩木社長が話していたとおり、陽射しが「下屋」に遮られて部屋の中まで差し込まないから、涼しいですね。ウッドデッキでたまに仲間が集まって焼き肉をする

んですが、雨が落ちてきても屋根があるからあわてることはありません。それと、母親の友だちが遊びにきたときに、玄関を通らなくてもデッキから入れるし、部屋に上がらなくても屋根の下で昔の縁側みたいにデッキに腰かけながら話ができますよ。岩木建設では、この「下屋」を家づくりの特徴の一つにして



いるんだそうです。たしかに、これはおすすすめです。

ヒノキ、スギ、サクラ いろいろな樹種の柱立つ

—— 19種類の木を使った“木の戸”ばかりでなく、構造材にもいろいろな県産材を使っているようですが。

岩木専務の話 リビングの飾り棚の両脇に6寸(約18センチ)角の柱が2本立っています。これはヒノキです。それより太い、掃出し窓の両脇の8寸(約24センチ)角の柱は、スギです。リビングの続きの和室の床柱には、ヒノキとサクラ。窓の外、下屋を支える6寸角の独立柱はヒノキで、長さが8メートルある一本物の桁はスギです。いろいろな樹種の県産材を使って建てるのが当社のこだわりです。樹種をさまざま取り合わせても、主張せず互いに協調し合って、全体として柔らかな色合いになるところが、木の良さなんですよ。



リビングの飾り棚の両脇には堅牢な6寸角のヒノキの柱が立てられている

奥様の話 うちで家を建てる計画があるって、どこかで話を耳にしたのでしよう、六戸や八戸の業者さんが訪ねてくるようになりました。たぶん、主人が、道の駅の『奥入瀬ろまんパーク』のそばでラーメン店(『タンポポ』)を営んでいるから、そこから話が広がったのかもしれないけど、でも、いくら来られても1社にしか頼みませんし、それではつきりと岩木建設にお願いしようって決めたんです。

決め手は“県産材使用” 地域を大事にする姿勢

ご主人の話 古くからの知り合いということだけじゃなく、県産材使用を前面に打ち出した、地域を大事にする企業姿勢が決め手でしたね。私も、商売を通じて地元にはお世話になっていますから。

岩木専務の話 公民館で婦人会の集まりがあったときに、私がちよっと具合が悪くなって、



和室の床柱にはヒノキとサクラが使用されている



中村様が経営するラーメン店「タンポポ」

そしたらそばにいた中村様(ご主人)のお姉様が、こりやただごとじゃないと救急車を呼んでくれたんです。救急車に乗り込んで一緒に病院まで行ってくれましてね。診察の結果は、救急車を呼び付けるほどの大事ではなかったんですけど、でも、身内のように心配してくれたお姉様のお気遣いが嬉しかったです。お姉様は、当社の岩木社長と小学校、中学校の同期なんですよ。つながっているところがいいですよ、地元同士って。

いわ木の家

有限会社 岩木建設

十和田市大字洞内字井戸頭175-1
TEL.0176-27-2906 FAX.0176-27-3259
E-mail:iwaki@sea.plala.or.jp



有限会社 岩木建設

長期優良住宅モデルハウス 『いわ木の家』

展示場訪問

DATA

十和田市洞内字井戸頭175-1

■延べ床面積/60.00坪(198.74㎡)

■使用青森県産材/スギ(大黒柱、下屋)、カラマツ(床)、クリ(柱)、ヒバ(土台、内壁、床)、カバザクラ(和室床)、クスノキ(上がり框)、キリ(建具)など。



丸太が積まれた(有)岩木建設の敷地内に、スクールバスが入ってきた。開いたドアから降りてきたのは、校長先生率いる法典小学校6年生の全児童25名。敷地内に建つ長期優良住宅モデルハウス『いわ木の家』を目の前にして、「すごい家」と感嘆の声があがる。これから昼までの半日、県産材で建てられたモデルハウスの室内を見学し、外では電動ドリルを使っのペン立てづくりや、カンナがけの体験学習が行われるのだ。木に触れて思わずこぼれた子供たちの笑顔を撮った。

生活に欠かせない木材 触れて認識を深めよう

この学習は、三八上北森林管理署、奥瀬・法量・八溪山合同森林事務所が、平成25年度の「森林・林業・木材産業体験学習」の一環として管内の十和田市立法典小学校に声をかけ、3

日間の森林学習が実現したものの。目的は、①間伐とその木材を利用することの意義について理解を深めてもらう②森林の樹木が人の手元に届き木材として利用できるようになるまでの過程を知ってもらう③私た

ちの生活に木材が欠かすことのできないものであることを認識してもらう——ことで、学ぶ「場」として、森林学習の3日目に、児童たちの大先輩にあたる岩木勝志社長がモデルハウス『いわ木の家』を提供した。



森林学習に参加した法典小学校の児童たち



スギヤクリ、カラマツ、ヒバなど豊富な
県産材を使用した展示場内部

岩木社長はこう話す。

「大工が減っています。大工になろうとする若者が育っていません。大工に関心を抱いてもらうためには、まず木に触れてもらうことから地道に取り組んでいかなければ芽は育ちません。『木との出会い』に当社の展示場をお役にたてるなら大歓迎です」

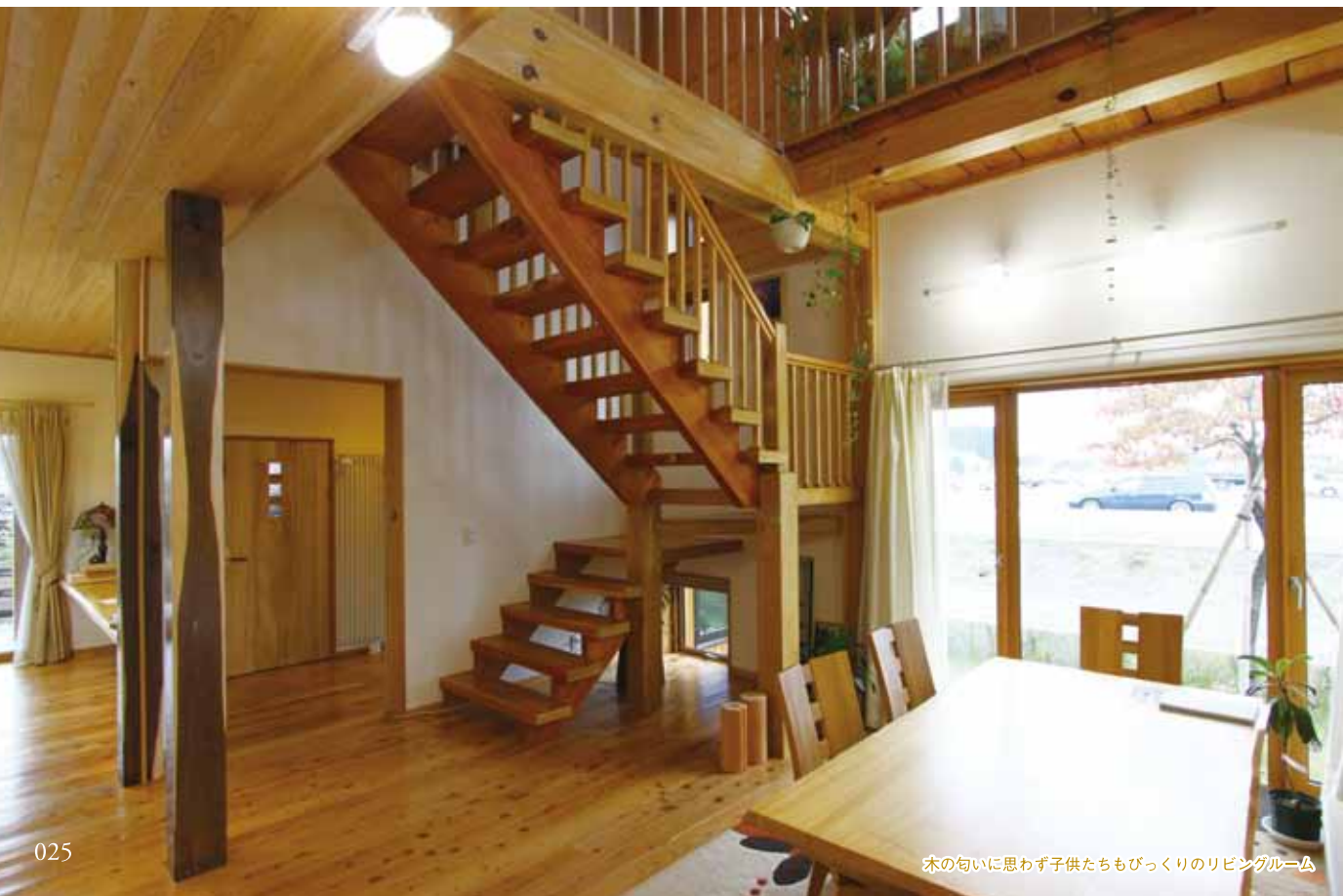
展示場の玄関が児童たちの

靴で埋まった。「うわあ何これ、

すげえ」「あつ、木の匂いがする」「こんな家ほしいつ」とたちまち歓声があがる。男子、女子がそれぞれ何人かずつ固まって部屋を見て回っては驚きの声をあげる。はやくも2階への階段を駆け上がりついでいく児童たち。吹き抜けを通して2階からも歓声が聞こえてくる。

——いろいろな木が使われているようですが。

岩木社長 柱のスギとかクリとか、リビングの床はカラマツ、和室の床はカバザクラ(樺桜)、内壁はヒバなど12種類で、全部青森県産材です。地元にはこれほど沢山の種類が育っている、ということを子供たちに



木の匂いに思わず子供たちもびっくりのリビングルーム



児童たちを前に、地元の木を使った家づくりを語る岩木社長（左）

知ってもらいたいですね。それだけ青森県の山は木の宝庫なんです」

ひととおり見終わってリビングに集まった児童たちの前に岩木社長が立ち、話した。

「木にはそれぞれの特徴があります。柔らかくて温かいスギ、堅いカバヅクラ、腐りにくいヒバ、いい香りもヒバの特徴です。

1本1本みな違うのは、一人一人の性格が違うのとまったく同

じことです。それぞれの違う特徴を生かしながら、組み合わせてつくるのが家なんです」

——岩木社長のご長男が、「大工さんになる」と小学生のときに宣言したそうですが。

岩木社長 そうそう。9年前のことなんですが、法興小学校で「ようこそ先輩」という教育事業が行われたんです。学校の卒業生を迎えて、講演とか実習の指導をしてもらったんですよ。それに私も呼ばれて、児童たちにカンナがけとか釘打ちをしてもらったんです。そのときに、4年生だったうちの息子も参加していて、学校の先生が、大人になったら大工さんになるか、って息子に聞いたら、なんと。今、息子は北海道の大学で建築を学んでいます」

将来の大工育ってほしい 建築業継いでいくために

展示場の外に出た児童たちが、電動ドリルを手にした若い大工（岩木建設所属）を取り囲

んだ。カマボコを切ったような半円形の木に穴をあけてペン立てをこしらえる大工の模範演技を児童たちが覗き込む。はい、やってみたい人。はい、



大工さんの指導のもとペン立て作りに挑戦する児童たち

はい。女子児童も負けじと手をあげる。最初のうちは誰しもアールになった曲面にドリルの先を突き立てていたが、カマボコを倒した平面に穴をあける児童もいた。それぞれに好きな絵を描いてマイペン立てを作っていた。

盛り上がったのはカンナがけ。若い大工がヒバの木にカンナをかけ、削られた薄いヒバがカンナ口から出てくると、児童がヒバの表面に触ってみて、「なにこのすべすべ！」。次々に手がのびて触る。落ちたカンナ屑を拾って匂いを嗅ぎ、「はあく、いい匂い。生きてて良かったあ」。



カンナ屑でつくったてるてる坊主。創作力がある



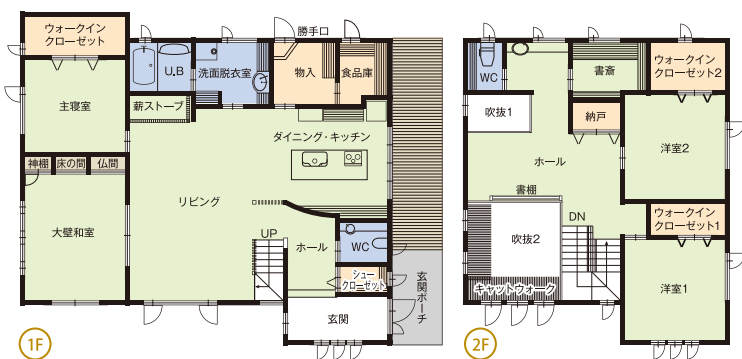
床にカバザクラを張った板の間の和室

笑い声がおこる。カンナ屑をズボンの後ろにはさんでシッポにしている児童もいた。

列をつくって児童たちがカンナがけに挑戦した。うまい児童に、そばから「いよつ、将来の大工さん」と声がかかる。社長はさすがに本職で、カンナを持つ姿が堂に入っており、シユツという音とともに紙のようなカンナ屑が吹き出た。校長先生も

挑んだ。

「来年、新卒の高校生が当社に入社します。小学校の頃から通学途中にある新築現場を見ているうちに、大工になりたいと思うようになったそうです。建築業を継いでいくためにも体験学習をきっかけに将来の大工が育ってくれば」と、カンナ



がけに夢中の児童たちに笑顔に向けている岩木社長の姿があった。

■展示場案内

■体験宿泊

家づくりの参考のために泊まってみたい方は、申し込みをすれば展示場に1泊できます。電話017612712906

■ベジタリアン料理教室

展示場のキッチンを使い野菜を中心とした料理教室を開いています。開催日は岩木建設のブログで随時お知らせしています。ご参加ください。



展示場のキッチンを利用して開催されているベジタリアン料理教室

いわ木の家

有限会社 岩木建設

十和田市大字洞内字井戸頭175-1
TEL.0176-27-2906 FAX.0176-27-3259
E-mail:iwaki@sea.plala.or.jp



梅田建設

Y様邸

ユーザー訪問

DATA

青森市大野
2013年9月竣工
■延べ床面積/54.00坪(178.86㎡)
■使用青森県産材/天然青森ヒバ無垢材。



カメラを手に、Y様邸の前に立った。1か月前、取材に訪れたときの、玄関内に漂っていた青森ヒバの匂いが蘇る。玄関だけでなく、居間にも洋室にも和室にも、家じゅうに満ちていた清々しいヒバの香り。「全部、無垢のヒバですよ」と、室内を案内してくれたY様のご満悦な笑顔も蘇る。取材時にまだ工事途中だったカーポートが完成してから、建物の外観を撮影することになっていた。Y様のご家族が間もなく引越してくれば、そこに居ながらにして四季折々の八甲田山がまると眺められる2階の窓へ、羨望の眼差しを向けながら、シャッターを切った。

「ヒバで家建てる大工」 評判が耳に入って依頼

ご主人の話 家内の両親が、梅田建設で家を建てたときから、梅田さん(梅田初男棟梁)

はぐつと身近な存在になりました。建てたのは10年ほど前です。場所は油川で、梅田さんの作業場がある内真部とは近いですから、「青森ヒバで家を建てる大工」という評判が両親の耳に入ったのでしょう。若い人ならあまり木にはこだわらないでしょうが、年輩者にすれば「家を建てるならヒバ」ですし、青森ヒバに徹底してこだわっている大工さんといえば今では梅田さんくらいですからね。両親は梅田建設を訪ねて行って、梅田さんに直接、建ててほしい、とお願ひしたそうです。

両親の家、つまり家内の実家



引き戸や造り付けの棚にまで青森ヒバが使われている



ですが、工事が始まってからは休日になるとちよくちよく見学に行つたものです。私も退職後には家を建て替える計画でしたからね。感心したのは、仕事ぶりが実に丁寧だったということです。特に、外断熱の工事のし方が念入りでしたね。厚さが30ミリの板状の断熱材を2枚も重



部屋中にヒバのすがすがしい香りが満ちているリビングルーム



床と建具の木肌が空間に柔らかさを与えている洋室

ねて張るんです。次に壁の中に
 通気層を設け、その上に下地の
 板を張る。外壁も屋根も、そう
 です。普通の家の倍もの手間を
 かけて造っているんですよ。断
 熱の工事って、家が完成すれば
 見えなくなる部分ですが、隠れ
 る所を入念に作るということ

は、完成した家に対して全面的に信頼が置けるということですよ。

——梅田さんの現場は何軒くらい見学されましたか。

『ご主人の話 結構見ましたよ。家内の両親が建ててから梅田さんの家づくりに関心が湧きましたからね。去年は、「家の本」(『青森県産材でエコな家づくり』Ⅲ)に紹介されていたM様のお宅(青森市北金沢)も、梅田さんの近くの内真部に完成した家も構造から見ましたしね……。ずいぶんとあちこち見て回ったので、梅田さんとの大工さんたちとすっきり顔見知りになってね。知らない人に頼むよりは、知っていたほうが安心感がありますよね。高い買い物なので、いちばん求めるのはやはり安心感ですよ。

「集成材は木じゃない」 徹底して無垢材のヒバ

『ご主人の話 定年後に、家の中でいちばん長くいるところは居

間です。それで、心底くつろげるように和風にしてもらいました。床は無垢のサクラのフローリング。壁は漆喰、天井は無節のヒバの羽目板です。無垢材の色合いが実にいいんですよ。床のサクラのほんのりとした赤味

と、天井のヒバの飴色。気持ちと和みます。それと、内壁の白い漆喰と、窓の障子。洋と和が程よく融合した現代和風ともいいますかね。天井に、化粧梁風のヒバの角材を渡してアクセントを付けてくれたのは梅

田さんです。その3本のヒバの角材は、倉庫に10年も寝かせて乾燥させたもので、長さが16尺(約4メートル85センチ)の長物を、13・5尺に加工したものだそうです。窓の鴨居を、古民家風に差鴨居にしたのも梅田



ヒバのやさしい木肌が出迎えてくれる玄関ホール

さんの提案で、これもヒバです。
——奥様はどんな要望をされて
いましたか。

ご主人の話 大まかなことは
私に任せてくれましたが、譲ら
ないのは「木」でした。無垢材で

なければだめだと。家内に言わ
せると、「集成材は木じゃない」
のです。梅田さんとまったく同
じ考えですね。

それと、梅田さんって、仕事
に「つながり」がありますよね。



重厚な格天井の和室は施主お気に入りの空間

「家の本」に紹介されていたM
様の場合は最初、祖父母が梅田
さんで自宅を建て、次に両親が
建て、娘夫婦が建てることにな
った。私の場合も、家内の
両親が建てて、わが家にもつな
がった。1軒1軒きちんと建て
て引き渡しをしているからこ
そ、つながってきているのだと
思うんです。いい加減な仕事を
していると切れてしまいますか
ら。

——「ご自身の体験から、これか
ら建てよう」とされている方へ
一言お願いします。

ご主人の話 現場を見て、「こ
れと同じに造ってほしい」と伝
える方法をお勧めします。口頭
だけだと行き違いが発生しが
ちではないでしょうか。さつき
お話ししたM様のお宅を拝見
して、特に和室が気に入ったの
で、入り口のヒバの引き戸も、
重厚な格天井も、同じにしてほ
しい、と梅田さんに伝えたく
す。その通りに出来上がりました。

梅田建設

青森市大字内真部字岸田21

TEL.017-754-3139 FAX.017-754-4522



株式会社 大山 建 工

第6回あおり産木造住宅コンテスト特別賞受賞

K 様邸

ユーザー訪問

DATA

弘前市

2013年9月竣工

■延べ床面積/64.00坪(211.51㎡)

■使用青森県産材/ヒバ(土台)、スギ(柱、天井板、格子など)、アカマツ(梁、胴差、床)、ケヤキ(柱)など。



南側に配置された大窓からはあたたかな陽光が降り注ぐ

緩勾配の屋根に下屋をつけ、家の正面に木の格子を立てた外観の佇まいが、弘前の歴史的建造物「石場家住宅」を想わせるK様邸。和風住宅を念願し、ネットで検索したら八戸市の(株)大山建工に行き着いた、とK様は振り返る。建築家の前田伸治氏(前田伸治十暮らし十職一級建築士事務所代表、埼玉県北本市)と共に、日本建築ならではの太い木と木を組む伝統構法で各地に住宅を建てていることを知っ

た。前田氏の設計を、大山建工の大手衆の技でかたちにした木造建築の美しさに惹き込まれた。竣工した9月(2013年)に開かれたK様邸の完成見学会で、雪国では寒いと敬遠されがち大きな窓をあえて南側に並べた設計の意図などについて、前田氏自ら来場者を前に講話した。

家の中に風景を取り込む 土地の持つ利点を生かす

前田伸治氏の講話 今回ご縁あつて弘前のお施主様(K様)から設計を依頼されました。初めてこの土地の下見に訪れたのは昨年(2012年)の2月でした。土地の境界がどこも分からないほどに雪が積もっていましたが、よく晴れた日で、そこから眺めた雪景色の美しさが強く印象に残りました。すぐそばを水音をたてて川が流れ、対岸には雑木林があり、その向こうには雪が輝く山並みが連なっています。この綺麗な風景を生かしたい。そこから設計が始まりました。

家を建てようとする場合、間取りよりも先に土地をよく把握することが大切です。よく見て、土地の持っている利点を探すことから始めてみてください。ここでも川や林、遠景の山並みの美しさに気付いたからこそ、敢えてリビングの窓を大きくすることによって、暮らしの中にその景色を取り込むことができました。また、家族が2階の寝室から下りてくるときに、階段の真正面に景色をまるごと眺めることができます。これも景色が動く階段ならではの演出です。それと、ご夫妻は、ものすごく和室を大事に考えていました。奥様がお茶をされていることもあるのでしょうか、床の間の和室を、家の中の精神的な拠り所として、家のどこからでも眺められる場所に設けたい、という要望でした。そこで庭の景色も眺められ、さら



伝統構法によって建てられた木の空間

に障子を開け放てば家中のどこからでも見通せる（講話が行われた）この場所に設けました。

皆さんよく在来工法という呼び名を耳にするとと思いますが、これは戦後に生まれたもので、「壁」によって家の耐力を持たせる建て方です。これに対して、昔からの日本建築は、太い材寸の柱や梁などを組んだ「軸組ぎすん」によって家に耐力を持たせる建て方で、伝統構法と呼ん

います。このお宅も、伝統構法で建てています。リビングの太い胴差どうさしを始め、屋根裏も沢山の大きな木で組んであります。大きな材寸の木を互いに組むことによって、26畳もの広さながら柱を1本も立てない空間が可能となったわけです。それも、このような家づくりに適う太い木材の調達と、それを組み立てる大工の技がそろってはじめて実現できるのです。

大山さん（大山重則社長）とは京都伝統建築技術協会でも知り合いましたが、10年ほど前から一緒に仕事をするようになって、そこで青森の森林資源の豊かさを思い知らされました。大きな木がまだまだ沢山ある。だからこそ、目の細かな良質な材料が取れるんですね。それと、樹種も豊富で、土台はヒバ、柱はスギ、胴差はアカマツ、そのほかにクリやケヤキや、ナラ、タモなどなどいろんな木がある。自分の好きなように材料を使える、まさに建築材の宝庫です。





家の中の精神的な拠り所となっている床の間のある和室



リビング上部の吹抜は2階のセカンドリビングとつながる

見直される木の温かさ キズも暮らしの思い出

この家に使われている目の細かなスギは、樹齢80年とか、それ以上の木からでないと取ることはできません。アカマツの太い梁もそうです。これらの材料を、大山建工では自社所有の山、あるいは近在の山から伐り出して、乾燥させ、それらを加工して家を作ることができると。

そこが他社にはない強みです。使っている木はすべて無垢の木です。無垢材は最近ようやくよく見直されてきてはいるものの、

割れる、隙間ができる、汚れるといった理由でまだまだ敬遠される向きがあります。しかし、本物だからこそ持っている温かさとか柔らかさは、貼り物の床板とは全く異質のもので、キズは付いても、そのキズが暮らした家族の思い出として床板に刻まれるところに、木の温かみがあるんですね。

お施主さんに家を引き渡すときに、必ず言い添えることがあります。月に1回程度でいいから、きちんと絞った雑巾で床を拭いてほしい、と。家族皆で手入れすれば、木は、拭いた分だけ光沢を持って返してくれます。拭かれることによって家と人が密接になっていく。そこに木の家というのは成り立っていると考えるのです。

建築の美しさが決め手

K様のご主人の話 建築中、現場には何回も訪れました。自分の家が出来上がっていくのを眺めるのは楽しみなものです。

一つだけ、もったいないと思ったのは屋根裏です。屋根裏に縦横に組まれた沢山の木が、天井を張ったら、見えなくなってしまうんです。もっと木を見ていたかった。それと、高さ(梁背)が45センチもある和室のアカマツの見事な梁が天井裏に半分隠れてしまったのにも、同じ思いでした。

大山建工との出会いは、ネット

トでした。「木の家」で検索したら、大山建工がヒットしたんです。建築家の前田伸治氏と一緒に日本の伝統構法で木造住宅を建てていることを知りました。ホームページに紹介されていた木造建築の「美しさ」が決め手でした。設計は前田氏、施工は大山建工と即決しました。(写真提供/大山建工設計部 黒坂秀紀氏)



玄関を入ると広々とした空間が広がる玄関ホール

真心こめて住むための

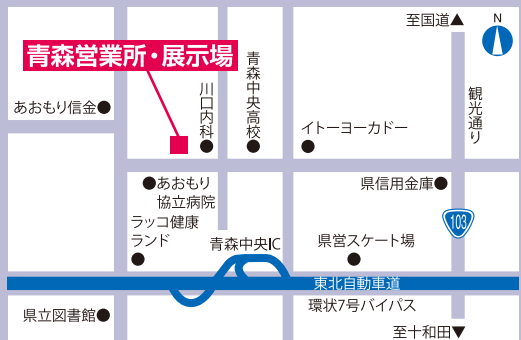


株式会社 大山建工

本社 ●三戸郡五戸町大字切谷内字淋代14-1
TEL.0178-68-3353 FAX.0178-68-2454

本 部 ●八戸市大字河原木字千刈田7-1
TEL.0178-21-3055 FAX.0178-21-3033
<http://ooyamano-ie.jp/>

青森営業所 ●青森市東大野1丁目8-3
TEL.017-762-3001 FAX.017-729-0488



有限会社 岡田工務店



沖田 豊治 様邸

ユーザー訪問

DATA

三戸郡南部町小波田
2013年10月竣工(リフォーム)
■床面積/平屋建て30.75坪(101.85㎡)
■使用青森県産材/スギ(下屋、小屋組)など。

リフォームの計画がある沖田豊治様が、まず声をかけてみたのは、沖田様のお嬢さんが昔お世話になった幼稚園の先生だった。すぐ近所の先生の家では以前、外壁のサイディングを張り替えていて、その工事をしたのが(有)岡田工務店。実は先生は、岡田工務店の社長の奥様の妹だと、沖田様はそのときに知った。顔見知りの先生にまず聞いてみよう——。そこからリフォーム計画が具体的に動き出した。「地元って、どこかでつながっているんですよ」と岡田大作専務。阿房宮の黄色い花が咲く10月、新築のように生まれ変わった沖田様邸へ案内してくれた。

2階建てを平屋に減築 傷んだ箇所リフォーム

奥様の話 子供たちが独立して、夫婦二人だけになった暮らして42坪の家は広すぎるし、減

築して、その際に雨漏りしている屋根を直そう、というのがそもそもの始まりでした。水回りや、台所の床など傷んだ箇所も一緒にリフォームしよう、と。東日本大震災以来、地震が頻発するようになって、だんだんと揺れもひどくなってきたから不



リビングに設けられた天窓からは明るい陽光が射し込む



木のぬくもりが感じられるリビングルーム。テレビボードが空間のポイントになっている

安も募っていましたしね、帰省した息子たちにその話をしたら、賛成してくれました。よし、やるか、と腰を上げたのが今年になってからです。

ご主人の話 8年ほど前でしたか、先生の家が外壁をリフォームしたんです。建て替えたみたいになりましたよ。工事をした岡田工務店に、わが家の風呂場とか台所の水回りの改修のことでちょっと聞いてみようかと電話をかけてみたら、さっそく、その日のうちにきてくれました。その方が、専

務さん(岡田大作専務)でした。**奥様の話** 初めて専務さんが訪ねてこられたとき、まず先に、うちの仏壇に挨拶したんです。驚きましたね。そんな人、ま

ずいませんよ。しかもまだお若いのに。感心しましたね。それが強烈な第一印象でした。間違いない人だと。それから、仏壇に供えてほしいってお菓子などを持ってきてくださったね。

——すぐその三戸駅(青い森鉄道)前にある「清水屋旅館」も岡田工務店でリフォームをしたのですが、ご存知でした



屋根裏の物置スペースへ通じる収納階段

か。

ご主人の話 清水屋旅館の前はよく通ります。リフォームしたのは3年前でしたか。通るたびに旅館がだんだんと若返っていく様子を楽しみに眺めたものです。感心したのは、工事を行っている岡田工務店の大工さんの仕事ぶりでした。たいがい3人の大工さんが現場にいましたが、話をしているのを1回も見ることがありません。いつも見ても黙々と働いていましたね。真面目まじめだなあ、と思ったものです。専務さんのような上司のもとで働いているんだもの、大工さんたちも真面目なはずだと合点しましたね。

玄関とリビングに天窗 気持ちにまで光が届く

奥様の話 実は、岡田工務店に正式に頼む前に、他の業者さんに連絡したことがあったんです。雨漏りがひどくなってきたので、板金屋さんに電話をかけたら、仕事がお忙しいようで、



天窗のおかげで格段に明るさを増した玄関スペース

すぐには対応できないとのことでした。雨漏りもそうですけれど、地震のたびに不安になるくらい揺れるので、地元の建設会社にもちよつと相談してみようと電話をかけてみたんです。でも、話は進みませんでした。それで、先生にお声をかけたんです。そしたら、専務さんがさっそく来てくださって……。それが今年の4月のことです。縁のある方には進むものですね。

—— 以前の家と「劇的に」変わりましたか。

奥様の話 帰宅するのが楽し



リフォームによって新築のように生まれ変わった和室

みなくらいに、玄関の中がとっても明るくなりました。専務さんが天窓（トップライト）をつけてくれたんです。玄関が北向きですから、日中はどうしても暗かったんですが、まるで電気をつけているみたいに明るくなりましたね。以前は2階建てでしたからリビングには窓からしか明かりは入りませんでしたけど、天窓が付いたお陰で、真上から射し込むようになりました。お日様の力って大きいですね。気持ちまで照らしてくれるようになります。

ご主人の話 玄関の前の駐車スペースに屋根（下屋）をかけたかったです。が、ふつうにトタンを張ってしまうと暗くなるからと、屋根の一部から光が入るように透明な材質（ポリカーボネイト）を張ってくれました。お陰で家の内も外も明るくなりましたよ。専務さんが常にこちらよりも一歩先回りました提案してくれるので、安心して一切お任せでした。

有限会社 岡田工務店

三戸郡三戸町大字川守田字東張渡48-1
 TEL.0179-23-6727 FAX.0179-23-6728
<http://www.14.plala.or.jp/bigmake/>
 E-mail : okada.office@orchid.plala.or.jp



有限会社 岡田工務店



佐々木 賢浩 様邸 ユーザー訪問

DATA

三戸郡三戸町川守田

2013年1月竣工

■延べ床面積/37.00坪(124.62㎡)

■使用青森県産材/スギ(構造材)、アカマツ集
成材(梁)など。

地域のために一生懸命
信頼される地元工務店
奥様の話 家を建てたい、と思

リフォームにより外観を現代風に刷新した南部町の清水屋旅館(青い森鉄道三戸駅前)が、国内最大級の住宅コンテストのリフォーム部門で、上位入賞に当たる地域優秀賞を獲得。地元紙で報じられた(2013年3月)記事に、佐々木賢浩様^{たかひろ}の目がとまった。写真には、旅館を営むご夫婦と並んで幼馴染みの岡田大作専務が笑顔で写っている。全国の工務店がしのぎを削るコンテストで、地元三戸町の(有)岡田工務店のセンスが高く評価されたことを記事は伝えているのだった。気心知れた間柄というだけでなく、佐々木様が自宅の新築を岡田専務に依頼したのは、工務店としての全国に通じる腕とセンスを買ったからである。



白と木肌を基調としたLDKは清潔感にあふれている

い始めたのは5年くらい前です。借家に住んでいる限りは家賃を支払わなければならぬのですから、だったらそれを新築のローンの返済に充てれば良いわけです。主人は、どっちかというところ、取りあえず住むところがあればいいという感じで、わたしほど積極的ではありませんでした。でも、建てることになれば、岡田工務店に頼むことだけは、はつきりと決めていましたね。

ご主人の話 岡田専務って、小学校や中学校の同期生からの依頼が多いんです。「家の本」(『青森県産材でエコな家づくり』2011年発行)で紹介されていた宮原邦夫さん(リフォーム)もそうですしね。これって、岡田工務店が三戸町の地元の工務店としてきちんとした仕事をしているからだと思います。積み重ねですね。同期生だからというだけじゃなく、信頼感があるから皆、頼むんだと思います。仕事ぶり

をちゃんと見ているんですよ。大手のハウスメーカーなら営業成績が芳しくなければその地域からさっさと撤退しますが、地元工務店はそうはいきませんからね。岡田専務って、地域のために一生懸命なんです。青森県商工会青年部連合会副会長も務めていますしね。そういうことも信頼感につながっているんじゃないですかね。

仕切らずワンルームにのびのび走り回る子供

——間取りは奥様がこしらえたそうですが、どんなところにこだわりましたか。

奥様の話 2階の子供たちの部屋ですね。三つに区切らずに、開放的なワンルームにしました。まだ小さいうちはのびのびと使わせようと思っただけですね。広さは16坪で、3人して走り回っていますよ。1階のLDKも、仕切らないでワンルームにしました。キッチンと、リビング、ダイニングと、洗面や浴室



の水回りが回遊動線につながっているので、ここでも子供たちがぐるぐる走り回って遊んでいきますよ。キッチンに立てば、そんな子供たちの元気のいい様子

も見渡せますし、それと、正面の小さな窓ガラス越しに外の様子も眺められるんです。秋祭りの山車も室内に居ながらにして見物できます

しね。念願どおりの間取りが実現しました。ご主人の話 妻がプランをこしらえ、岡田専務が、リビングの天井に化粧梁を架けるといつ

たセンスのいい味付けをしてくれました。木が見えるだけで空間が柔らかくなりますね。

岡田専務の話 佐々木様のお宅で、「家の本」『青森県産材で

エコな家づくり』Ⅳの取材をす

る日に、(佐々木様の了解を得て)あるお客様も一緒にお連れしました。新築の計画のある

方で、当社で建てた家を見学したいと電話を頂戴していたん

です。当日は、佐々木様のご主人と奥様はダイニングのテーブル

で取材を受け、一方、お連れしたお客様と私はリビングの

ソファで向かい合って話をしていました。その方とお会いした

のは2回目なんです。最初は、八戸市内のある美容室でした。

その店から、内装をリフォームしたいと相談を受けて、おうかがいしたときに、たまたま店に

髪をセットしにいられていたお客様がその方なんです。「三戸

の岡田工務店ですが」と私が名乗った際、その方は、あら、と内

心思ったそうです。三戸の大工



キッチンに回遊動線につながる洗面室



秋祭りの様子も大窓越しに室内にしながらして楽しめるという小上がりのスペース



住み心地の良さが笑顔にあらわれている佐々木様ご家族



「カーポートの屋根が透明なので玄関前が明るい」と佐々木賢浩様

さんに縁があるのかもしれない
——と。その方の実家を建てた
のが、三戸の大工だそうで、腕
が良く、頑丈な造りだから長持
ちする、と身内の評判を耳にし
ていたから、自分も建てるなら
三戸の大工さん、とかねがね
思っていたそうなんです。

実はその方は、近々、中古住
宅を購入する予定だったそう
です。そんなときに、前々から
心にとめていた「三戸」の工務
店が現れたというわけです。そ
れで、思い直し、まずは相談し
てみよう、と、電話を頂戴したと
いうわけです。

——そういうところが地元
の良さですね。人と人とが身
近でつながっているというか。
岡田専務の話 そうなんです
ね。リフォームの件で伺った美
容室に、たまたまいらしていた
方から相談を受けることにな
ろうとは、考えてもいませんで
した。地元ってありがたいなっ
て思うのは、そういうときです
ね。

OK 有限会社 岡田工務店

三戸郡三戸町大字川守田字東張渡48-1
TEL.0179-23-6727 FAX.0179-23-6728
<http://www.14.plala.or.jp/bigmake/>
E-mail : okada.office@orchid.plala.or.jp

